

菊池市地域おこし協力隊

12人の隊員を紹介します！



魅力発信マイスター
伊藤 亮 (着任3年目)

元タウン誌の記者。広報きくちのライターとして、本紙の特集記事などを執筆。

3月末任期終了



地域健康プランナー

加藤 文雄 (着任3年目)

元スポーツインストラクター。各所を周り、地域の健康づくりに貢献。

3月末任期終了



集落文化創造プランナー

富田 満 (着任3年目)

龍門地域の活性化のほか、デザイナー経験を生かしポスターやチラシを製作。

3月末任期終了



にぎわい創出プランナー

橋本 真也 (着任3年目)

アートフェスを企画。菊池一族の場面を絵で再現する歴史関係の活動も。

3月末任期終了



ブランド推進マネージャー

前島 起 (着任3年目)

特産品の開発や商品化に成功。「きのこ南蜜」は数々の受賞歴を持つ。

3月末任期終了



観光プロモーター

岩本 晃彦 (着任2年目)

イベントの企画実行。NHK大河ドラマ「西郷どん」に関わる活動や展覧会を実施。



まちなか創造プランナー

小森田百合子 (着任2年目)

限府の商店街の活性化や、空き店舗を使ったイベントを企画。



ローイングディレクター

香月 俊彦 (着任1年目)

元ボート選手。国内外の合宿誘致や、菊池高校ボート部のコーチを務める。



移住・定住コンシェルジュ

草野 優二 (着任1年目)

空き家調査を担当。家業が喫茶店のため、コーヒー関連の活動も。



アートクリエイター

東 耕平 (着任1年目)

造形作家。作品制作のほか、キクロスや学校で制作の実演や指導をしている。



里山創造コーディネーター

松枝 智博 (着任1年目)

自然を生かした企画や、海外生活の経験をもとに中央公民館で英語教室も。



移住・定住コンシェルジュ

松尾 愛 (着任1年目)

空き家調査のほか、塾講師の経験を生かして中央公民館で学習教室を開講。



1_新聞紙と折り紙で作る動物に子どもたちも興味津々(東耕平さん) 2_玉祥寺で開催した「お寺でシネマ」(小森田百合子さん) 3_今年度は200回以上開講している健康教室(加藤文雄さん)

菊池市では12人が活動中

隊員は都市部から菊池市に着任し、最長3年の任期で働きます。制度や現状を説明します。

定住を目指して活動
市内で起業した隊員も

総務省が平成21年度から導入した制度「地域おこし協力隊」。隊員は他の地域(主に都市部)から受け入れ先の自治体へ移住し、最長3年間の任期で活動終了後の定住を目指しています。

平成29年度は997の自治体

で4830人の隊員が活動。本市は平成26年に初の協力隊が着任し、現在は12人が在籍中です。任期を終えた4人全てが定住し、市内で起業した隊員もいます。

よそ者の視点で
菊池に新たな風を

協力隊の業務内容は多種多様。

本市の隊員はそれぞれが市役所の各担当課に所属し、各自に違う任務が与えられています。職歴や特技を生かして専門的な業務を行う者。地域や行政と細やかに連携し、問題点の解決や企画を立案する者。菊池市ではない場所で生活していた「よそ者の視点」を強みに、新たな発想でよりよい地域にするべく活動しています。

特産品の商品開発、イベントの企画、地域の健康づくりなど、隊員の主導で菊池に新たな風を吹き込み実績を上げた例も多く、今後も展開が期待されています。

特集

地域に飛び込む

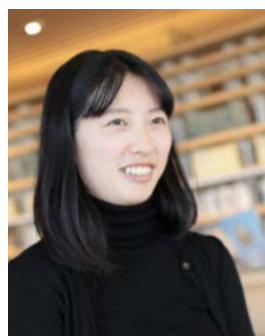
地域おこし協力隊の取り組み

「健康体操をきっかけに、地域の交流が深まりました」

「特産品の製品化に向けて企画や助言をしてくれて、助かりました」

本市で活躍する地域おこし協力隊。特技や経験を生かし、地域の課題の解決や、専門技術が必要な行政の仕事など、さまざまな分野で活動しています。隊員の仕事や地域の声を追ってみました。

【問い合わせ先】
企画振興課 ☎0968(25)7250





1_ホースセラピーのサポートを務める(松枝智博さん) 2_コーヒーマーケットで自慢のダッチコーヒーを振る舞う(草野優二さん) 3_塾講師の経験を生かし、勉強を教える(松尾愛さん) 4_菊池高校ポート部のトレーニングを指導(香月俊彦さん) 5_西郷隆盛ゆかりの石碑を磨いて拓本を制作(岩本晃彦さん)



地域を見つめ、歩み続ける

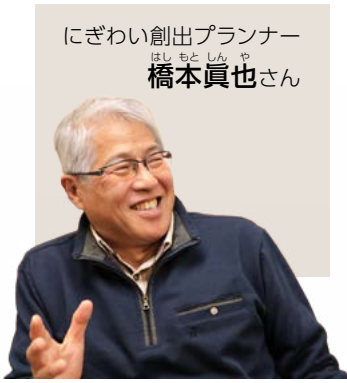
地域おこし協力隊の仕事は多岐に渡ります。これまでの歩みや今後について、協力隊の声を聞いてみました。

きこの南蛮



地域や住民と企画を実現

今年度で卒業する2人の隊員、にぎわい創出プランナーの橋本眞也さんとブランド推進マネージャーの前島越さんに協力隊の活動を振り返ってもらいました。橋本さんは廃校を活用した龍門アートフェスティバルを企画。平成28年の初年度には約7000人が旧龍門小に来場し、成功に導きました。「廃校で寂しくなった龍門小がにぎわう姿を見て、とてもうれしかった」と住民に言われたことが心に残っています。山あいの地区に集客を果たしたアートフェスは、廃校活用の事例としても注目を集めました。



にぎわい創出プランナー
橋本眞也さん

前島さんは農業や食の担当として特産品の開発を企画しました。シイタケ農家の女性グループ「きくちの母ちゃん」と企画した商品「きこの南蛮」は、県農産物加工食品コンクールで金賞と県知事賞を獲得。全国を対象にした優良ふるさと食品中央コンクールでも農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。時には「きくちの母ちゃん」のメンバーに悩みを相談することも。「信頼関係を築けたことが大きかった」と話しました。



ブランド推進マネージャー
前島 越さん

各隊員がさまざまな分野で活動中

地域おこし協力隊は、地域と連携して幅広い展開を見せています。隊員は各自の特技を生かし、任務以外にも菊池のためにさまざまな活動をしています。限府のまちづくりを担当する小森田百合子さんは、自らも空き店舗で映画の上映会を開催。香月俊彦さんは菊池高校ポート部のコーチとして、熱心に生徒を指導しています。

富田満さんは八方ヶ岳の登山道の案内看板を製作。草野優二さんは実家が喫茶店の経験を生かしてコーヒーマーケットを開催しました。松尾愛さん、東耕平さん、松枝智博さんの3人は中央公民館の一室で学びの場「プラネット」を開校。工作や元塾講師、英会話、心理学といった特技を地域に還元しています。



企画振興課
川上 篤 主任主事

協力隊は、地域にどのような効果をもたらしているのでしょうか。担当する市企画振興課の川上篤主任主事は「菊池以外で生活した経験や専門技術を持っているのが強み。地元の人では気付きにくい資源や価値を見つけられるほか、新たな発想で活性化してくれる存在です」と説明します。

しかし、全国的には名称の「協力隊」を誤解して隊員に雑用やボランティアを押し付けてしまいう例や、受け入れ態勢が整っていないのに募集してしまい、地域と隊員に誤解が生じて任期途中で退任してしまう例も多く見られます。川上さんは「菊池は

隊員と住民の連携が重要



藤崎台球場で菊池高校野球部の試合の撮影(伊藤亮さん)

募集段階で任務と方向性を明確にしている。地域と隊員がうまく連携できるような、市もサポートを続けます」と話します。地域おこしは、協力隊に任せただけでは続きません。「菊池は応援してくださる市民が多く、協力隊が活躍する土壌が整っている」と川上主任主事。これからも地域と隊員がうまく連携し、持続的な地域づくりが期待されています。

地域の声

石碑を甦らせてくれた岩本さん

西郷隆盛の祖先が暮らした西郷地区には「西郷南洲先生祖先発祥之地」の文字が刻まれた石碑があります。近年は汚れて文字も見えにくい状況でしたが、NHK大河ドラマ「西郷どん」でまちおこしをしていた協力隊の岩本さんが、拓本を取るため何日もかけて磨いてくれました。

岩本さんと住民は交流も深まり、地域のためにいろいろとアイデアを出してくれます。伐採した竹で箸を作る計画も進行中で、私たちも刺激になりますね。石碑の横には西郷南洲公園が開園し、来訪者も増えました。岩本さんのおかげで、きれいになった石碑を見てもらえるのでうれしいです。



ふるたなひろ
古田直廣さん(西郷)

OBの声

地域の健康づくりをお手伝い

協力隊の任期中は、地域健康プランナーとして市民の健康づくりを手伝いました。各地の公民館や集会所などを回り、健康教室を開催し続ける日々。私が行かない日でも地域の人々が自発的に開催する地域が増え、健康への意識を持つ市民が増えたと感じています。

卒業に合わせ、泗水でヨガやピラティス、整体のスタジオを開業しました。協力隊として開催していた出張健康教室も継続しています。今後も菊池の人たちのお役に立てたらと思っています。自分のやりたいことができて、地域貢献もできた3年間。本当に充実した時間でした。



「からころりん」代表
きたざとよしゆき
北里嘉幸さん(三万田)

任期満了を迎える

地域おこし協力隊の活動報告会を開催します!

今回は3月末で任期満了を迎える3年目の隊員5人の報告会です。3年間の活動や菊池での暮らしを振り返り、これまでの活動の集大成となる報告会です。市民の皆さんをはじめ、多くの人的ご参加をお待ちしています。

とき 3月26日(火) 午後6時～
1人20分×5人
※質疑応答の時間あり

ところ 中央公民館 大研修室
(キクロス2階)

